

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	梁 敏玲 【比較社会文化学専攻 平成23年度生】	<p>中国華南地方の都市広州は、二千年に及ぶ歴史をもつ重要な港町であるとともに、首都から遠く離れた境界領域における王朝の統治・軍事の拠点として、独特の性格を付与されてきた。本論文は、広州のそうした多面的な特色に留意しつつ、城郭内とその周辺を含む都市の空間的構造を分析することによって、清代広州における秩序の形成及びその特質について考察を行ったものである。</p> <p>第一章では、「城防」(城郭都市の守備・治安維持)という視角から、都市に駐留する諸系統の軍隊及び行政諸官庁の各々の空間的・機能的管轄範囲とその相互関係を検討し、第二章では、県の補助官である典史の管轄する空間的範囲として、農村と区別された都市(城郭内とその周辺部を含む)の領域が行政区画として形成されてくる過程を考察した。以上が制度的方面からの分析であるのに対し、第三章以下は、都市における社会的結合という観点から、広州住民の都市空間認識を扱っている。第三章では広州への移住民の土着化と同族結合の過程を論じ、第四章では街区即ち街路を挟む近隣関係による社会的結合について検討し、第五章では、広州に駐屯する漢人・満洲人の八旗集団に着目し、旗人集団が都市に定着する過程における秩序形成と変動について解明した。</p> <p>本論文の第一の特色は、漢文の公文書・法令集・地方志・族譜・随筆・日記などのほか、欧米人の記録やイギリスの外交文書など多様で豊富な史料を用いて、清代広州の空間構造のもつ多面的な特色を生き生きと描いている点にある。従来の研究で用いられてこなかった史料を発掘し、各章で新しい論点を提示している。第二の特色としては、日本語・中国語・英語の研究文献を広く渉猟し、ヨーロッパ・イスラーム・日本などを視野に入れた比較の観点から、清代広州の特色を論じている点が挙げられる。</p> <p>審査では、緻密な実証と柔軟なアプローチによって清代広州の空間構造と秩序の在り方を解明した完成度の高い力作と評価されたが、比較史的な分析の部分で日本やヨーロッパの都市史研究のより新しい成果を取り入れるべきこと、及び史料用語についてより丁寧に説明すべきこと、などが指摘された。著者は審査委員のコメントに対応して丁寧な補充・改訂を行い、問題点は適切に解決されたものと認められた。</p> <p>公開発表での質疑応答も的確であり、著者の十分な知識と明確な観点を示すものであった。以上より、本審査委員会は、本論文を博士論文としての水準に十分に達していると判断し、博士(人文科学)、Ph. D. in Historyの学位に相当するものと認めた。</p>
論文題目	清代広州の都市空間と秩序	
審査委員	(主査) 教授 岸本 美緒	
	教授 三浦 徹	
	教授 新井 由紀夫	
	教授 神田 由築	
	教授 宮尾 正樹	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ ⊖)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

